天と地をつなぐ:聖 ホセマリアの教え

皆さん、兄弟である人々のいるところ、希望の実現をめざして仕事に従事し、愛情を捧げるところ、これこそ皆さんが日々キリストと出会うところです。この世の最も物質的なものの真っ只中こそ、神と人々に仕えて自らを聖化すべきところなのです。

私が聖書の言葉を使って常に教えているように、世界は良いもの、神の御手から出たもの、すれは神の御手から出たものったもの、があり、「よし」と思われた。良い世界を悪いもの、不でらい世界を思いるとしたのは、人間の罪といるです。皆さん、決して疑わないのです。といるできなり、「というな男女が、日常のことがあれば、そ

れは神のみ旨に反する生き方になります。

逆に、人間生活の社会的、物質的、 世俗的な仕事の〈中〉で、それらを 〈通して〉、神に仕えるよう招かれ ていることを、いま改めてはっきり 理解していただかなければなりませ ん。研究所、病院の手術室、兵舎、 大学の教壇、工場、作業場、田畑、 家庭、その他広範にわたるあらゆる 種類の什事の中で、神は日々私たち を待っておられます。ぜひ知ってお いてください。ごくありふれた状況 の中に、聖なること、神的なものが 隠れています。そして、それを見つ け出すのは、私たち一人ひとりの青 仟なのです。

1930年頃、私のもとに来ていた学生や労働者に、霊的生活を〈物質化〉できなければならないと教えていました。当時も今も頻繁に見られる一種の二重生活への誘惑から守りたい

と望んでいたのです。すなわち、一方では、内的生活、神と関係を保つ生活を営み、他方では、それとは係わりない全く別の生活、現在の些細な事柄に満ちた家庭生活や職業生活、社会生活を営む誘惑です。

皆さん、二重生活は避けてください。二重生活を送るべきではあれてはあいた信者でありたはないのからないです。を生活を送れている。まりた生活を送っていたないのからなが神に大きである生活がある生活がある生活がある生活がです。これが変いない神に出会うのは、ではいか質的な事柄です。

皆さん、平凡な日常生活の中で主に 出会うことができるか、いつまで 経っても出会わないか、これ以外に 道はありません。それゆえ私たちは 今、ごくありふれたものや状況に、 本来の高貴な意味を取り戻させ、神 の国に役立たせ、霊的なものにする 必要があると言えます。それには、 すべてをイエス・キリストとの絶え 間ない出会いの手段とし、機会にし なければなりません。

すべての体の復活を信仰告白する真のキリスト教は、物質的だという レッテルを貼られるのを恐れず、

「体から離れた純霊説」とは、当然ながらいつも対立してきました。そこで、霊魂には扉を閉ざす物質主義と真っ向から対立した「キリスト教的物質主義」とも称すべき立場を主張できると考えます。

昔の人が受肉された〈みことば〉の 足跡と称した秘跡は、私たちを聖化 して天国へ連れていくために、神が 選ばれた道をはっきリ示すものであ ることに、疑いの余地はありませ ん。各々の秘跡は、創造する力と購 う力をすべて備えた神の愛であり、 物質的な手段を使って私たちに与え られることもお分かりでしょう。これから始まるユーカリスチア(聖体と 祭儀)とは、購い主の尊い御体と御血 にほかなりません。私たちはそれ を、最近の公会議が指摘したように 「人間が栽培する自然のもの」□(大 地の恵み、労働の実り)であるこのと の慎ましい材料、パンとぶどう酒と いう形で受け取ります。

の栄光を現すためにしなさい」[4]と書き記しています。

下ゆっくりと「夢にやれば、良い出来映えにつながる」。(ゆっくりと 丁寧に、何事であれ、成すだけでなく、仕方が大事)[5]。

皆さん、キリスト信者が、重要でないと思われる日常の事柄を愛の心で果たすなら、それは神的な値打ちに満ちたものになると保証します。だから私は、キリスト信者の召し出しとは毎日の散文を英雄詩に変えるこ

とだと、幾度となく繰り返してきたのです。天と地は地平線でひとつになるように見えますが、実はそうではありません。天と地が本当にひとつになるのは、日常生活を聖化しようとする皆さんの心の中なのです。

今、日常生活を聖化すると申しまし たが、私はその言葉の中にキリスト 信者の務めのすべてを含めていま す。無駄な夢を見たり、実現不可能 な理想を育んだり、空想を描いたり するのはやめましょう。私はこの種 のものに〈ないものねだり〉という 名を付けました。結婚していなかっ たら、こんな仕事に就いていなかっ たら、もっと健康に恵まれていた ら、もっと若かったら、もっと齢を 重ねていたら、など。しかし、こん なことを考えず、主がおられるとこ ろ、つまり、もっと実質的でもっと 身近な現実に真剣な態度で携わって ください。復活されたイエスは「わ たしの手や足を見なさい。まさしく

わたしだ。触ってよく見なさい。亡霊には肉も骨もないが、あなたがたに見えるとおり、わたしにはそれがある」ぼと、仰せになったではありませんか。

(聖ホセマリア・エスクリバー『教会を愛する』、精道教育促進協会、 1992、pp. 83-87)

- [1] 創世記1.7以下参照
- [2] 第二バチカン公会議『現代世界 憲章』38番
- [3] ーコリント3・22-23
- [4] 同10・31
- [5] A・マチャード、Poesías completas CLXI、『格言とうた』 XXIV、Espasa-Calpe、 Madrid、 1940

[6] ルカ24・39

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-sekkyo-shigoto-no-seika/(2025/11/21)